

自立活動 指導案

1 単元名 『聞いて 伝えて 相談しよう ～ 魚釣りゲーム ～ 』

2 小集団活動（なかよしタイム）について

本校のこたばの教室では、同じ時間帯に通級している子どもたちを集め、一緒に活動する小集団活動「なかよしタイム」を指導に取り入れている。どの指導枠においても、90分の指導時間を、「個別（前半）→小集団（後半）→個別（振り返り）」という流れで構成しているが、それは個別指導での学び（発音、話し方）を小集団においても発揮できることを目指しているからである。個別でできたことが、小集団へと対象を広げてでもできたという自信が、さらに広い場（在籍学級等）でも力を発揮しようとする姿へとつながる第一歩になってほしいと願っている。

また、小集団活動は、個別指導だけでは習得しづらい「かかわりの中でのコミュニケーション」についても力を付けることができると考えている。全ての音を正しく出すことだけが指導のゴールだとはとらえていない。社会の中で自分の思いを存分に伝える力を身に付け、人とのコミュニケーションを楽しめる子にするために、実際にかかわりながらやりとりできる場として、小集団活動は非常に適していると考えます。

以上のことから、本校では小集団活動の意義を次のようにまとめ、積極的に推進している。

<小集団活動の意義>

- 子ども同士のかかわりの中で、コミュニケーション能力を育てることができる。
- 個別での学びを小集団においても発揮し、さらに在籍校や家庭での意欲へとつなげることができる。
- 仲間の個性や特徴を知り、一人一人の努力や成長をお互いに認め合うことができる。
- できたという達成感と仲間同士の信頼関係の深まりにより、社会的な自己肯定感を高めることができる。

3 単元の選定と設定の工夫

（１）児童の状態像と単元で求めるつけたい力

<個別の課題とコミュニケーションにおける状態像>

この時間枠には、4名の児童が通級している。言語やかかわりについての大きな課題は次の通りである。

A児（1年女児） ことば1 T1	発音の誤り（k, t, g, dが会話中で混同することがある、ツ→トゥ） 初めての場所や人、事柄に対して不安が強い。9月より通級開始
B児（2年男児） ことば2 T2	発音の誤り（k→t, g→d） 気持ちを切り替えられなかったり、勝ち負けにこだわりすぎたりするところがある。
C児（1年男児） ことば3 T3	発音の誤り（s→ç z→z, キ→チ等）、吃音、場に応じた声の大きさの調整が難しい 理解がゆっくりである。質問に対して返答がかみ合わないことがある。
D児（6年女児） ことば4 T4	口蓋裂による発音の誤り（s, ç, k, t, ts→母音化等） 理解がゆっくり。話すことは好きだが、十分聞かずに一方的に話すことがある。

1学期には、単元『気持ちを伝えて仲良くなろう』において「無人島で暮らそう」というゲームをB, C, D児の3名で行った。単元が始まったばかりのころは、B児は教師チームに勝ちたいあまりに、食料を決めるためのヒモ選びで、C児やD児に相談せず、どのヒモを引っ張るか一人で決めてしまったり、C児は、今やっていることを十分理解できていないまま適当に返事をして進めてしまったりすることがあった。またD児は、返答に迷うと笑って済ませたり、周りの意見に流されて自分の気持ちを十分伝えられなかったりし、仲間と気持ちを伝え

合って一緒に楽しむというところに難しさがあった。そこで、ヒモを1本選ぶ3回のチャンスについて、3回とも3人でどのヒモにするか相談して決めるという方法から、一人1本ずつ選ぶようにした。自分が選んだヒモについて仲間にそれでよいか確認する機会を確実に位置付けるためである。

一人ずつ決め、それを伝え合う方法は、それぞれの意見を仲間で共有することとなり、当たりはずれを一緒に喜んだり、結果を声を合わせて発表したりと、一緒に楽しもうとする気持ちの深まりを感じることができた。

また、自分が決めたことを一人ずつ話す場を設けたことは、相手を意識してはっきり話すという点でも成果となった。「水色の細くて長いヒモでいいですか。」など話型に当てはめながら問いかけ、周りが「いいよ。」などと答えるやりとりを繰り返したことは、自分の意見を聞いてもらう、仲間の意見を受け入れるという経験となり、それが気持ちを伝え合うための第一歩になったようである。

そこで、本第5ターム単元『聞いて 伝えて 相談しよう』では、第3ターム単元の成果を活かし、それを発展させる活動を仕組むこととした。仲間と楽しくかかわる姿を目指すとともに、自由に意見を交流するような場においても自分の気持ちを話し、やりとりできる姿をねらいたい。その思いで次のような指導内容を設定した。

＜単元でねらう指導内容（つきたい力）＞ 「自立活動 学習指導要領」指導内容より選択

○仲間とのかかわりを楽しむ 2－（1）（A児、C児）

○状況に応じて動き、ルールを守って積極的に参加する 3－（3）（4）（A児、B児、C児、D児）

○積極的に仲間の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする 6－（2）（A児、C児）

○相手の気持ち、状況に応じてコミュニケーションの方法を工夫する 6－（5）（B児、D児）

発音の誤りや吃音等の言語面における一人一人の課題については、上記4点目の「状況に応じて」という部分において、児童の状態像により、「集団内での自然なやりとりにおいて課題を設定する」「決められた話型や設定された場において課題を設定する」「現在は小集団においては課題として取り上げない」など、担当者の判断で設定するものとする。

（2）コミュニケーションにおける具体的な目指す姿について（本校の研究より）

コミュニケーションの力を育てたいという願いをもって小集団活動が続け、子どもたちの成長は日々実感している。しかし、ことばの教室で願うコミュニケーション能力とは何か、その力の高まりをどのようにとらえ、何を目標とすればよいのか明確にしたいという思いから、本校では小集団活動のあり方を研究として取り上げ、実践を続けている。

昨年度から、小集団活動におけるコミュニケーション（やりとり）の高まりを4つの観点からとらえ、具体的にねらいを設定するための指標「やりとりメジャー」を作成している。そのメジャーを元に、本単元におけるこのグループの子どもたちの現在の姿を下の表のようにとらえ、願うやりとりの姿を以下のように設定した。

A児：話し合いの内容を聞いて、自分の意見をもち、自分から発言する姿

言語面（現段階では、集団では指導しない）

B児：仲間の思いを取り入れながら、全体の意見を合わせて相談を進める姿

言語面（定型文の中で、カ、ク、コ音に気を付けて話す姿）

C児：相手の話す内容をつかみ、自分の意見を発言する姿

言語面（「つれました」というときのツ音のウの口形に気を付けて話す姿）

D児：よく考え、自分の意見を仲間に分かるように発音に気をつけながらいねいに話す姿

言語面（定型文の中で、カ行音、タ行音、シ、ス音に気を付けて話す姿）

＜やりとりメジャーと各児童の位置付け＞

Ⅰ 思考 メジャー	1. 話し合う話題が分かる	2. 自分の考えを作る	3. 自分の考えを、促されて発言する	4. 自分の考えを進んで発言する	5. 意見を整理し、考えを進める		6. まとめ、結論を出す
		C児	A児	D児	B児,		
Ⅱ 表現 メジャー	1. 仲間の中で、表現する	2. 最後まで話す	3. 話形に沿って話す	4. 仲間を真似て話す	5. 自分の言葉で話す	6. たくさん話す	7. 相手に分かりやすく話す
					A児, C児	B児, D児	
Ⅲ 受容 メジャー	1. 話に耳を傾ける	2. 話の内容をつかむ	3. 人の意見に反応する		4. 正しく理解しようとする		5. 他と比べ、整理しながら聞く
		C児	A児, D児		B児		
Ⅳ かわり メジャー	1. 集団での学び方を身に付ける	2. 場に合わせた話し方をする	3. 話し合いの内容を受け入れる	4. 周りと一緒に話す	5. 仲間に関心を持ち、問いかけに答える	6. 相手に合わせ会話を進める	7. 全体を考えた言葉かけをする
					A児, C児	B児, D児	

*○児は、特に重点をかけたやりとりの項目

（３）活動の選定と設定の工夫

単元でつきたい力、さらにやりとりにおいて目指す姿に向かい、子どもたちが必然性をもって生き生きと活動するための条件を次のように考え、次のような工夫のある「魚釣りゲーム」を設定した。

選定の条件		設定の工夫
条件① かかわって楽しむことのできる活動であること	魚 釣 り ゲ ー ム	・ペアでのチーム戦とすることで、協力したり勝ち負けを争ったりする楽しさを味わえるようにする。 ・二人で1匹の魚を釣るという設定を取り入れることで、息を合わせて動く必然性があるようにする。
条件② 話し合うことで活動がより楽しく魅力的になる場面があること		・話し合いの場を設定し、自分の意見が受け入れられて作戦が決まることで、伝え合う喜びを感じられるようにする。 ・同じペアでのチーム戦とし、毎時間の相談を積み重ねることで、よりよい釣り方を見つけ、点数の伸びを感じられるようにする。
条件③ 意見が分かれる可能性のある話し合いができること		・魚の大きさや配点の違いなど、釣る条件の設定を工夫することで、様々な観点から意見が言えるようにする。

（４）「魚釣りゲーム」の概要と願うやりとりに向けての支援

①ゲームの概要と願うやりとり

ペアで協力して魚を釣り、2チームで得点を競うゲームである。魚には、小・大・特大の大きさがあり、大きさごとに池（フラフープ）に入っている。魚は大きさによって、小（1点）、大（3点）、特大（5点）と点数が違う。大・特大の魚は1匹を2人で釣る。魚の泳ぐ池から離れたところに魚屋さん（T2/T3）がおり、魚を釣ったら「〇が釣れました！」と大きな声で伝え、魚を受け取ってもらう。制限時間の中で高得点を取るために、どの魚からねらって釣るかうまく釣るコツ等について相談する。

4名を次のようなペアに分ける。相談タイムや魚を釣る場面において、単元の終了時に、以下のようなかかわりややりとりができることを願う。

＜男の子チーム B児, C児＞

B児は、自分の思いを理由をつけながらくわしく話す。しかしC児は、難解な単語や長い文が理解できないことがある。そこでB児は平易な言葉で端的に言い直し、C児が理解できたか確かめる。C児は自分の意見を進んで言う。二人の意見が合わなかった場合は、B児がC児の気持ちも考えながら、お互いが納得できる作戦を提案する。

☆やりとり例

- B「ぼくは、「当たり」の魚は10匹中5匹で当たる確率は2分の1だから、確実に高得点の「特大」がいいと思うけどどう？」
- C「(理解できず)？」
- B「(要点をまとめて)「特大」から釣る？5点だから。」
- C「ぼくは「当たり」がいい。」
- B「じゃあ、先に1匹だけ「特大」を釣って、次に「当たり」を釣る？」
- C「いいよ。」

＜女の子チーム A児, D児＞

D児はA児に意見を求め、A児は自分の考えを話す。D児はA児の考えを考慮に入れて自分の意見を伝えるが、発音の不明瞭さから、A児には聞き取れないことがある。そんなときに、A児は自分から「もう一回言ってください。」とD児にお願いする。D児はしっかり伝わるように、一音一音丁寧に出し、分かったかどうか確認する。

☆やりとり例

- D「どれから釣る？」
- A「特大が釣りたい。3匹しかいないから男の子チームより先に釣ってしまった方がいいと思うから。」
- D「私も同じで、点数の多い魚からねらうといいと思う。私が頭の方を釣るから、尻尾の方を釣ってね。」
- A「(不明瞭で聞き取れず) もう一回言ってください。」
- D「(丁寧に) 私が頭を釣るから、尻尾を釣ってね。」
- A「いいよ。」
- D「じゃあ、一番は「特大」の魚に決めようか。」
- A「はい。」

②願うやりとりに向けての支援

○教師の働きかけ～個別指導での意識付け

個別で願うやりとりの姿について、個別指導の場で事前に確かめる時間を設ける。

1つ目はペアでの話し合い方についてである。「まず、自分から意見を言おう。」「もし、意見が分かれたらどうする?」「きっと、ペアの〇〇さんは、△△と意見を言うと思うよ。」「もし、〇〇さんの言っていることが聞き取れなかったらどうする?」などと、これまでのやりとりの傾向やかかわる相手の特徴を考えながら、活動時にどんなかわり方や話し合い方をすればよいか話し合うようにする。また、話すことへの安心感や自信をもって参加できるように、その時間の課題となることを事前に伝え、前もって意見をもち、話し方を練習しておくことも個に応じて行う。

また2つ目に、個人の言語面の課題において、どの場面で何ができるかとよいか確認する。出てくる魚の名前を課題音に気を付けて読む練習をしておいたり、司会担当になっていれば、気を付ける音を確認しながら練習したりする。個別指導のように落ち着いて自分の出す音に向き合えない状況の中で、少なくともここだけは!という場面を限定し、具体的に確認する。

○教師の働きかけ～話し合い活動(相談タイム)において

点数の高い魚から釣るか、釣りやすい魚からにするか、落とさないようにするには・・・といった様々な課題について、短い相談タイム内で決めるのは難しいであろうと考える。なかなか意見を言えなかったり、異なる意見をまとめられなかったりすることも考えられる。こういった動きを見て、子どもたちが話し合いを進める糸口となるヒントを伝えたり、相談の見通しをもてたりするようにする支援を行う。

各チームには、それぞれのチーム担当の教師(T2,T3)が「魚屋さん」として参加している。「魚屋さん」は、相談タイムには一緒に相談に参加し、話し合いの調整役となる。単元の始めの頃は、子どもたちの思いを引き出

したりつないだり、意見の整理を行ったりする。また何かを決定する時には、両者の同意が必要であるということも教えるようにする。回数を重ねるごとに徐々に働き掛けを減らし、子どもたちだけで話し合いを進められるようにする。T1 は、両チームの作戦タイムに参加し、その良さを評価できるようにする。

○ミニボードの活用

話し合いの内容を整理し、視覚に残る有効な手立てとして、ミニボードを活用する。話し合いで出た意見や、魚の点数、釣る順序など必要事項を記録しておくことで、作戦を立てる際に思考を整理したり、意見を言う手掛かりとなったりして大変役に立つと思われる。

ミニボードは、基本的に「魚屋さん」の担当教師がより効果的な方法でまとめていくものとする。

（５）本時について

前時までには、子どもたちは「大（３点）：二人で１匹」と「小（１点）：一人１匹」の魚を比べ、制限時間の中でどちらの魚から順に釣るとよいか相談している。二人の息が合ってスムーズに運べれば「大」が有利であることから、子どもたちは「大」を優先的に釣りたいと考えている。

そこで本時は、さらに点数の高い「特大（５点）」の魚を登場させる。「特大」はその大きさから「大」よりも釣りにくく、３匹しかいない。一気に得点を得られるため、子どもたちは特大の魚から釣りたいと思うと予想するが、釣りにくさを考えると、慣れている「大」からまずねらいたいという意見が出るかもしれない。意見の相違が生まれるかもしれないという状況で、子どもたちがどのように話し合いをまとめ、作戦を決めていくかが本時の課題となる。

それぞれのチームがやりとりしながら作戦を立て、作戦通りに力を合わせて動けるよう、本時には次のような工夫と支援を行う。

☆各魚の特徴をまとめて記入する用紙を用意し、釣る順番を決めるための話し合いのよりどころとする

どの魚がどのように設定されているのか、一目で理解しやすい表を用意する。「釣ってみて」と「こつ・釣る順」の欄を空白にしておき、この部分を話し合いで埋めながら、この表をもとに釣る順を決める話し合いができるようにする。

大きさ	点数	釣り方	数	釣ってみて	こつ・釣る順
小	１点	一人１匹	たくさん	（釣りやすい）	
大	３点	二人１匹	１０匹	（釣りにくい）	
特大	５点	二人１匹	３匹	（とても釣りにくい）	

☆動きを合わせるための作戦を確認する

釣る順番についての作戦は立てたものの、次の動きが分からなかったり気持ちがあせったりして動きがばらばらになることが予想される。二人が息を合わせてうまく釣るためには、いつ、誰が、どんな言葉がけや動きをするとよいかについても相談タイムで確認する。男の子チームはT2の支援を受けながらB児が、女の子チームはT3の支援を受けながらD児が中心になって、「次こっち！」「せえの！」などの声を掛けよう、同じスピードで走ろうなど、そろえて釣るための作戦について話を進める。

☆個別指導において個人のねらいについて事前に確認する

前時までの姿から、ペアの子とのかかわりや相談タイムにおいて、どのように声をかけたり、意見を言ったりすればよいのかを担当者と確認し、願いと意欲をもって参加できるようにする。また、個によっては、本時「特大」の魚が入ることを事前に伝え、何から釣るとよいか前もって意見をもったり、それをどんな言葉で伝えるとよいのか考えたりもする。（別紙「児童の実態分析」参照）

4 単元のねらい

- ①□ゲームのルールを守り、ペアの子と一緒に動いたり協力したりしながら、楽しんで活動することができる。
- ②□自分の意見を自分から発言したり、ペアの子の気持ちを考えた伝え方を工夫したりして、高得点を取る作戦を相談して決めることができる。

(②についての個別のねらい)

A児：ペアの子の話を理解できるまで聞き、魚釣りの作戦についての意見を自分から話すことができる。

言語（本単元では、集団の場では指導しない。）

B児：魚釣りの作戦について、ペアの子に分かるような言葉を選んで伝え、二人の意見を合わせてチームとしての作戦を決めることができる。

言語面（魚の名前や司会の定型文を話すときに、カ、ク、コ音を正しく話すことができる）

C児：ペアの子の意見をよく聞いて話の内容をつかみ、自分の意見を話すことができる。

言語面（ツ音の「ウ」の口形を作って「つれました。」と伝えることができる。）

D児：話題となっている内容についてじっくり考え、ペアの子に伝わるような明瞭な発音や話し方でくわしく話すことができる。

言語面（定型文を話すときや司会、時にはA児と話す相談する場面においても、カ行音、タ行音、シ、ス音に気を付けて話すことができる。）

5 単元指導計画（全6時間 本時4／6）

時	ねらい	学習活動	期待するA児の変様
1	魚釣りゲームを楽しみたいという願いをもつことができる。	魚をたくさん釣って高得点を得たいという願いをもつ。 大きな声を出して魚をたくさん釣ろう *やりとり：「〇が釣れました！」と大きな声で言う。	D児の「せえの」の声に合わせて「〇〇が釣れました。」と言う。 D児の話が聞き取れなかったとき、「？」と困ってしまい、反応できない。
2・3	魚をうまく釣るためのコツや、魚を釣る順番について相談し、協力してゲームを進めることができる。	制限時間内に「小」と「大」の魚の中からできるだけ高得点になるように選んで釣る。 二人で息を合わせて、魚をたくさん釣ろう 作戦を考えて、いい点を取ろう *やりとり：たくさん釣るための方法（釣り方とどの魚から釣るか）についてペアで相談する。	T2の促しで釣りたい魚を聞かれ、「大きい魚」などと短い言葉で意見を伝える。 T2に促されて「もう一回言ってください。」と伝える。
4（本時）	「特大」の魚も考えに入れ、魚を釣る順番について二人の意見を合わせて作戦を決め、協力してゲームを進めることができる。	「特大」の魚が導入される。魚の大きさによる点数の違いや釣りやすさなど、いくつかの条件を考慮して魚を釣る順番を相談して決め、力を合わせて釣る。 意見を合わせて作戦を決め、協力して釣ろう *やりとり：どの魚から釣るとよいかミニボードを使って話し合い、意見を調整する。	T2の促しで、釣り方についての自分の意見を理由も考えてくわしく話す。 自分からD児に対してタイミングを合わせる声をかける。 T2の促しがない場合、自分から「もう一回言ってください。」と伝える。
5・6	「当たり」の魚も考えに入れ、魚を釣る順番について二人の意見を合わせて作戦を決め、協力してゲームを進めることができる。	「当たり付き」の魚（+3点、3匹のみ）が導入される。確実にあたりが出るとは限らない状況の中で、意見を調整しながら作戦を決め、力を合わせて魚を釣る。 意見を合わせて良い作戦を決め、協力して釣ろう *やりとり：当たり魚の特徴（「赤い魚」「2文字の魚」など）から見当をつけたり、釣る順番による得点の違いを想定したりしながら、どの魚から釣るか相談する。	T2の促しがない場合でも釣り方についての意見を理由も付け足してくわしく話す。

6 本時の目標

- ① ゲームのルールを守り，ペアの子と一緒に動いたり協力したりしながら，楽しんで活動することができる。
- ② 「特大」の魚が入ったことを考えて，どの魚から釣るとよいか自分の意見を進んで発言したり，ペアの子に分かりやすいような伝え方を工夫したりして，釣る順番や息の合わせ方について，二人の意見を合わせながら作戦を決めることができる。

(②についての個別のねらい)

A児：D児の話が聞き取れなかったら聞き返すなどして分かるまで聞き取る。点数をたくさん取れる釣り方や魚を落とさずに釣るコツについて自分の考えをもち，教師やD児の促しを受けて発言することができる。

言語面（集団の間では指導しない）

B児：C児に理解できるような平易な短い文で効率的に得点を取るための作戦を伝えたり，C児の意見を聞いたしながら，二人の意見を調整して，チームとしての作戦を決めることができる。

言語面（司会として定型文を話す単語について，カ，ク，コ音を正しく話すことができる）

C児：B児の話の聞きとって話の内容をつかみ，賛成や反対の意思を示したり，教師やB児の促しを受けて自分の意見を話したりすることができる。

言語面（「つれました」のツ音において，ウの口形に気を付けて音を出すことができる。）

D児：一番効率的に点数を取る釣り方や魚を落とさずに釣るコツについてじっくり考え，A児に伝わるように発音に気を付けながら，くわしく話すことができる。

言語面（「○○（魚名）がつれました。」という文を話すときや，A児と話す相談する場面において，カ行音，タ行音，シ，ス音に気を付けて話すことができる。）

ポイント①（願いの把握）

事前の担当者同士の打ち合わせで、C 児は、ポイントの高い魚よりもかっこいい魚をつりたいという願いをもっていることを確認したため、B 児にあらかじめ「意見が分かれそうだけど、どうしたらいい？」と解決策を考えるよう促した。

その結果、実際場で釣りたい魚を交互に釣るという意見を提案することができた。

ポイント②（構音の事前練習）

カ行音が比較的調子よく出ていたため、事前の司会の練習においてもカ・ク・コ音を全て正しく出すよう練習した。

本番は緊張していたが、自分で課題音を意識して話すことができた。

ポイント③（評価の在り方）

いつも C 児を気にして声をかけ続けたこと、カ・ク・コ音がきれいにでていたことを、継続して使っているレベル表で評価する。特に、力を合わせたことで「負けたけど楽しかった。」と言えた心の成長は大きなポイントであることを伝えた。

個別での指導と担当者の手立て（男の子チーム）

T3 によるチームへの支援

見た目がかっこいい魚や強そうな魚に惹かれている C 児には、自分の釣りたい魚について意見を言うよう促す。また勝ちにこだわりたい B 児は、高得点が見込まれる魚の選び方について意見を言うであろうと思われる。そこで、二人の意見の違いをミニボードにまとめて実際の魚を示したりして C 児の理解を助けるとともに、B 児には、C 児の願いも自分の考えと同様に大切に考え、二つの意見を折衷して作戦を練るように促す。

B 児（2 年生男子） 2 組：T2

【個別指導】

1. 口の体操をする。（舌の体操、ウエハー等）
2. 構音練習をする。（ガ行音、カ音の単語）
3. 小集団活動に向けてのめあての確認をする。

○B 児と次の点を確認する。

- ・釣る順番でなく「C 児の釣りたい魚」を聞くこと。
- ・自分と C 児の意見の違いがあったときは、二人の意見を合わせた作戦を考えること。
- ・C 児が分かる、簡単な短い言葉で話すこと。
- ・C 児に次の動きが分かるようにどんどん声をかけること
- 司会の練習をし、「これから」など気を付けて言う言葉の練習をする。

- ・C 児にいっぱい声をかけて、力を合わせて魚釣りを楽しもう。
- ・カ・ク・コ音に気を付けて司会をしよう。

【小集団活動】

1. 始めの会（司会）

- カ、ク、コ音が正しく言えていることに、笑顔で応える。

2. 練習タイム

- ・特大、大、小をそれぞれ釣ってみる。
- それぞれの魚の釣りやすさの特徴について思ったことを言葉にするよう促す。

3. 相談タイム

- ・どの順番で釣るか作戦を立てる。
- 基本的に見守るが、T3 の補助的な役割として、B 児が C 児に対して意識を向けられていないときや、C 児へのかかわり方に困っているときに、後ろから声のかけ方の例を小さい声で示す。

4. 本番ゲーム

- 二人の動きが合わないときに、B 児に直接「声かけて！」と声をかける。

5. 振り返り

- C 児にどれだけかわかることができたかについて振り返るよう促す。

【個別指導】

1. 自分の姿を振り返り、よさを実感する。

- 勝敗や楽しさによる気持ちの高ぶりをおさめてから、B 児の思いを聞く。その後、次の 2 点についてよさを具体的な姿で評価する。
- ・司会でカ、ク、コ音がきれいにでていた言葉があったこと
- ・相談タイムや本番中に自分からどんどん C 児にかかわり声をかけたこと

C 児（1 年生男子） 3 組：T3

【個別指導】

1. 口の体操をする。（口じゃんけん、ウ列音の口形等）
2. 構音練習をする。（キ音の単語）
3. 小集団活動に向けてのめあての確認をする。

○どんな魚が釣りたいか、C 児のねがいを聞く。

- ・聞かれていることが理解できるよう、短文で尋ね、ねがいをミニボードに記す。さらに、実物を見せながら確かめる。
- ・C 児のねがいをもとに、釣りたい魚について意見を言う練習をする。
- ・作戦タイム時に意見を言うとともに、B 児の意見も聞き、二人の意見を合わせて作戦を立てるという流れをつかめるようにする。

- ・B 児に釣りたい魚を言って作戦を決め、力を合わせて魚釣りを楽しもう。
- ・「つれました」の「ウ」の口の形に気を付けよう。

【小集団活動】

1. 始めの会

- 話し手に注目して聞いている姿を見守る。

2. 練習タイム

- ・特大、大、小をそれぞれ釣ってみる。
- 釣りやすさという点で思ったことを話せるよう、それぞれの大きさごとに分けて短文で尋ねる。また、答えたことを魚を指し示しながら確認する。

3. 相談タイム

- ・どの順番でつるか作戦を立てる。
- 自分のねがいを B 児に伝える姿を見守る。
- 二人の意見をミニボードに短く記し、実物を示すことで意見の相違に気付けるようにする。また、決まった作戦についても同様に支援する。

4. 本番ゲーム

- 作戦通りに動けないときには、声をかける。
- ツ音の口形を示し、気付けるようにする。

5. 振り返り

- B 児にねがいを伝えて作戦を立てることができたかどうかという観点で振り返るよう促す。

【個別指導】

1. 自分の姿を振り返り、よさを実感する。

- 勝敗や楽しさによる気持ちの高ぶりをおさめてから、C 児の思いを聞く。その後、次の 2 点についてよさを具体的な姿で評価する。
- ・B 児に向かって釣りたい魚について意見が言えたこと
- ・「つれました」のツ音の口形に気をつけて言おうとしていたこと

ポイント④（願いの把握）

実際に使用する魚を使って、魚の名前を 1 つ 1 つ確認し、「○ ○が釣れました。」と言う練習をすることによって、作戦タイムで何を釣りたいのか具体的に意見をもつことができるようにした。その繰り返しが「ウ」の口形の確認にもなった。

ポイント⑤（話の内容の視覚化）

C 児には、言葉だけでは作戦の内容が具体的にイメージしにくいため、ミニボードに①～、②～と端的に書いて表すとともに、実際の魚を見て指さしながら、釣る順番を確認した。

分らないままあいまいに返事をしてしまう C 児にとって、納得することのできるよい確認方法となった。

個別での指導と担当者の手立て（女の子チーム）

ポイント⑥（課題の確認）

仲間とかかわることに強い不安のあった A 児であったが、D 児となら話せるという思いをもち始めている。また、勝負へのこだわりもあることから、そろそろ自分の意見を積極的に言うことを促していく。

ここでは発音について意識を向けるようなことはせず、思いを十分に表現し、かかわりを楽しむことを主の目的とする。

ポイント⑦

（話し合いの活性）

本時導入した「特大」の 3 匹の魚の中でも、どの魚から釣ると良いのか、それはなぜか問いかけた。

同じ長さでもまん丸のくじらより、細身のカジキの方が落ちにくいという理由を話すことができ、それならその次は・・・とさらに相談を進めるきっかけとなった。

T2 によるチームへの支援

二人は前時までに D 児を中心に意見を言い合うことができるようになってきているが、立てた作戦が二回目の結果に結びつかなかったり決まった事柄を二人で確認することができなかったりする。そこで、一回目の結果を踏まえた話し合いができるように視点を絞って発問をする。また、二人で決まった事柄を共通理解できるように D 児に決まったことを二人で確かめるよう促す。

A 児（1 年生女子） 1 組：T1

【個別指導】

1. 口の体操をする。（舌の体操、ウエハー等）
2. 構音練習をする。（ツ音の子音 [ts] 息出し）
○A 児と鏡の前で構音動作を確認する。
・そっと息を出すこと、イ音の口形を保ち、ゆっくり三回「つ」を言うよう確認する。
・できていることを十分に認め、うまく舌の位置を安定させて言えるようなら口形をウ音へ移行する。
3. 小集団活動に向けてのめあての確認をする。
○A 児と次の点を確認する。
・相談の場面でどんどん意見を言うこと
・分からないことがあれば、自分から尋ねること
・立てた作戦をどんどん使うこと

進んで意見を言ったり聞いたりして、力を合わせて魚釣りを楽しもう。

【小集団活動】

1. 始めの会
○話し手に注目している姿を見守る。
2. 練習タイム
・特大、大、小をそれぞれ釣ってみる。
○それぞれの魚の釣りやすさの特徴について思ったことを言葉にするよう促す。
3. 相談タイム
・どの順番で釣るか作戦を立てる。
○前時の様子を振り返り、論点を絞って発問する。
○A 児が自分の意見を進んで言える姿を見守る。
○D 児の言った言葉が理解できない様子だったときに、「今の分かった？」と声をかける。
○二人の意見をミニボードに短く記録し、決まった作戦を確認するよう D 児に促す。
4. 本番ゲーム
○二人で声を合わせて言葉と言ったり、作戦通りに活動したりしている様子を短い言葉で認める。
○あわてて声が揃わなかったり、魚が落ちてしまったりした場合はミニボードを指差し、作戦が思い出せるよう促す。
5. 振り返り
○進んで意見を言う姿を見守る。

【個別指導】

1. 自分の姿を振り返り、よさを実感する。
○勝敗や楽しさによる気持ちの高ぶりをおさめてから、A 児の思いを聞く。その後、次の点についてよさを具体的な姿で評価する。
・相談タイムや本番中に進んで意見を言ったり聞いたりすることができたこと

D 児（6 年生女子） 4 組：T4

【個別指導】

1. 日常生活の出来事について、やりとりする。
2. 構音練習をする。（シ、ス音・カ、タ行音）
3. 小集団活動のめあてを設定する。
4. 担当者を相手に、やりとりのシミュレーションを行う。
○小集団活動で扱う魚の名前や、「釣れました。」の言葉を練習する。課題音に印を付けて発音に気をつけて音読したり、ボイスレコーダーで自分の音が正しかったかどうかを確認したりする。
○相手を見て話したり、話し合いで決まったことを確認したりするやりとりを、担当者とシミュレーションする。D 児が課題をめあてボードに書く。
・シ、ス音に気を付けてゆっくり話そう。
・決まった作戦を確かめて、男の子チームに勝とう。

【小集団活動】

1. 始めの会
○話し手に注目している姿を見守る。
2. 練習タイム
・特大、大、小の魚をそれぞれ釣ってみる。
3. 相談タイム
・どの順番で釣るか作戦を立てる。
○話し合いで決まったことを確かめるのを忘れていた場合、めあてボードを指差し、働きかける。
4. 本番ゲーム
○作戦通りに動けないときは声をかけ、新たな工夫が見られたときには即時評価する。
5. 振り返り

【個別指導】

1. 自分の姿を振り返り、高まりを実感する。
○課題音に気を付けながら発音できた具体的な姿を挙げて、価値付けや方向付けを行う。
・「釣れました」のシ音に気を付けて発音していたこと
・魚の名前の中にあるシ、ス音に気を付けて発音していたこと
・やりとりの中でも、発音に気を付けて伝える姿があれば、その姿を次時に向けて方向付ける。
○作戦が結果にどのように結びついたのかを具体的に伝えながら、決まった作戦を確認し合うことでより仲間と協力することができ、高い点数を取ることができたことを伝える。

ポイント⑨（課題の把握）

D 児の言語面での課題は、多くの課題音を同時に意識し続けて話さないといけなことから自分の耳でのフィードバックが難しい。そのため、ボイスレコーダーを用い、客観的に振り返る時間を設ける。
定型文を話すときには、ゆっくり話すことで音を確認めながら出す姿が見られた。

ポイント⑩

（話し合いの進め方）

お互いに相手に遠慮するため、意見を出し合っても、その後どのようにまとめるかのところで相談が停滞する。ペアの A 児は 1 年生でもあることから、ここでは 6 先生として D 児がまとめるよう促す。

D 児が話しやすいように、どの部分について考えればよいのか、ボードを差し示して見せることで、自分で文を整えて話を進めることができた。

ポイント⑪（評価のあり方）

発音面についても評価をするが、同時に A 児とかかわりについて話す。D 児のやさしさが A 児の積極性を生んでいる。A 児は D 児以外の子とはペアは組めないと言っていることを伝え、二人が力を合わせたことで得たものについて話をした。

【別紙】児童の実態分析

	実態と考えられる要因	本単元で願う姿		手 立 て	本時の学習活動における指導内容 (学習過程のどこで、どのように指導するか)
<u>A児</u> (1年女児) ことば1	発音の誤り（ツ→トゥ） サ行音を発音する際、舌が出るためサ行音の子音[s]の音がひずむ。（接歯性の発音）	個別	ツ音を単音で正しく発音することができる姿	鏡を見ながら自分の構音動作を確認することで、舌が出ていることに気づき、ツ音の子音[ts]を気をつけて言えるようになってきている。	鏡の前で舌の動きを意識しながら、ツ音の子音[ts]の発音練習をする。
		集団	単音での構音動作を獲得している最中であるので、集団では指導しない	単音での構音動作を獲得している最中であるので、集団では指導しない。	（音の苦手を意識させないように、大きな声で「つれました。」が言えたときには即時評価する。）
	初めての場所や人、事柄に対して不安が強い。9月より通級開始	個別	安心して、担当者と苦手なことや出来にくいことについても話すことができる姿	児童の話したい気持ちを大事にして聴くことで、苦手な発音についても話せるようになってきた。	楽しんで活動ができるようにゲーム性のある活動に取り組んだり、できていることを即時評価したりする。
		集団	ベアの子に進んで尋ねたり、自分の意見を伝えたりできる姿	見通しがもてるように事前に活動内容やベアの子について知らせておくことで、初めてのことに参加できるようになってきている。	ベアの子が言っていることが分からなかったときには「今の分かった？」と、聞き返すよう促す。
<u>B児</u> (2年男児) ことば2	口腔機能の未熟さによる発音の誤り（k→t, g→d）	個別	カ、ク、コ音を単語レベルで正しく発音できる姿	指導用菓子を使い構音点の確認と息使いの練習を続け、2週間前よりカ、ク、コ、ガ、グ、ゴの単音が出始めたが、まだ不安定である。	カ音の単語を、語頭、語中、語尾毎に正しく出す練習をする。該当音の前に構音点を意識するよう伝える。
		集団	魚の名前、司会の話す定型文に含まれる単語について、正しく発音できる姿	事前に魚の名前を担当者の後について言う練習をした。言いにくい単語は該当音の前で一度止め、舌の位置を確かめれば出せる。	司会として文中に含まれるカ、ク、コ音の単語について事前に練習するが、小集団活動中は直接的な働きかけはしない。
	気持ちを切り替えられなかったり、勝ち負けにこだわりすぎたりするところがある。	個別	一連の活動に見通しをもち、スムーズに次の活動に移る姿	活動の点数化をしたことで、最後までやりきりたいという思いをもって動くことが増えた。すぐ終われず「待って。」という言葉は多い。	ミニボードで一連の活動の見通しをもち、1つ1つの活動が確実にできたことを点数化して評価する。
		集団	仲間を意識し、相手のことを考えた言動をして、活動を楽しむ姿	T3に促されC児の反応を確かめたり、意見を聞いたりすることができた。負けただけ楽しかったという思いはもてた。	C児の意見を受け止め、二人の意見を合わせた作戦を考えられるよう声をかける。
<u>C児</u> (1年男児) ことば3	発音の誤り（s→c z→z, キ→チ等）、吃音、場に応じた声の大きさの調整が難しい	個別	ウ列の口形に気を付けて口の体操をする姿 舌を脱力してやさしくキ音を発音する姿	鏡の前で口の体操や構音指導をし、舌が脱力できているかに着目して練習した。しかし、舌圧紙なしでの脱力はまだできない。	舌の脱力している状態を作るために、キ音の構音指導時に、平らになった担当者の舌を見せて、まねるようにする。
		集団	「つれました」のツ音の口形に気を付けて話す姿	魚屋さん役になり、ツ音の構音時の口形を示し、気付けるようになってきた。よって、口をすぼめて言おうとする姿が増えた。	魚屋さん役になり、ツ音の構音時の口形を示し、気付けるようにする。
	理解がゆっくりである。質問に対して返答がかみ合わないことがある。	個別	聞かれていることを正しく理解して答える姿	顔を見てゆっくりと会話をした。また、大きく相槌を打ってやりとりが上手くできていることを伝えた。それでも心情を尋ねたときなどは返答がかみ合わないため、いくつか答えの例を提示し、選択して答えられるようにしてきた。	話の理解を容易にするために、話のやりとりや指示を短文で伝える。
		集団	作戦タイムで、ベアの子との話し合いの内容を理解する姿	ベアの子の意見を噛み砕いて再度伝えたり、実物の釣竿や魚を実際に動かしながら説明を加えたりしてきた。しかし、それでも理解が難しいときもある。	ベアの子の思いを理解できるようにするために、作戦タイム時に要点をミニボードに書いて示したり実物を示したりして、視覚的に捉えられるようにする。
<u>D児</u> (6年女児) ことば4	口蓋裂による発音の誤り（s, c, k, t, ts→母音化等）	個別	カ、タ行音、シ・ス音を音読レベル・やりとりの中で正しく発音できる姿	ボイスレコーダーで自分の発音を確かめ、課題音に印を付けることで、音読レベルで正しい発音ができるようになってきた。	シ音、ス音の子音が発音できていることを、付箋紙の揺れや、ボイスレコーダーで確かめる。
		集団	やりとりをするときに、課題音に気を付けて話すことができる姿	正しく発音できた姿や自分の発音に気づき、言い直すことができた姿を即時評価することで、カ、タ行音に気を付けながら発音できた。	活動中に発音する単語を事前に担当者と練習し、ボイスレコーダーで正しく発音できたか確かめる。
	理解がゆっくり。話すことは好きだが、十分聞かずに一方的に話すことがある。	個別	担当の方を見て、話したり聞いたりすることができる姿	こちらの問いかけとは別のことを話していることを指導することで、一度話すのを止め、再度、こちらの話を聴くことができた。	やりとりがかみ合っていないことを、一度会話を止めたり、困った表情をしたりして、間接的に示す。
		集団	仲間の方を見て話したり聞いたりすることができたり、話の内容を正しく聞き取る姿	実際のかかわりの場面で即時評価を行うことで、相手を見たり話を聴くことに気が付くことができた。	話し合いで決まったことを確かめるのを忘れていた場合、めあてボードを指差し、働きかける